

一 かなきんゆかた

六 ツ

一 ふるきくししかたびら

一 ツ

一 おび

三 すじ

このぶんひつのうちより、いたみわづらいのうちいき申され候物は、ふとんよるのもの、あわせ、ひとへもの、みなくよるひるかいひやういたしたるひまの下女どもにとらせ、こんど (以下 缺)

ラ ジヤガタラ文

其五 (平戸町木田長十郎氏藏)

○六寸四方の小袱紗の裏にはぎ合せたる小切れに認めあり、

日本こいしやく、かりそめにたらいで、又とかへらぬふるさと、おもへば心もこゝろならず、なみだよむせび、めもくれ、ゆめうつともさらにはわきまへず候へ共、あまりの事に、ちやづ、一ッしんじり、あらまほんまひしやく、こしよろ

うば様参る

註 ジヤガタラ文其四の差出人は其五と同一人ならんが、コシヨロは何人にて、兩書は

何年のものなるか考ふべき材料なし、但おみやどのは、佐藤君の説の如く立石清之介妹宮ならん、

ム ジヤガタラ文

其六 (平戸町木田長十郎氏藏)

猶々御太儀な [此下切れてなし]

[此一行切れてなし]

じやかう入のすみ [三四字不明] か御もとめ給はるべく候、安 [不明]

すみはやくにたゝず候 [二三字不明] にて一下向五年毎十年か [不明]

毎年長崎御兩政所様廣大之蒙御慈悲甲辰(寛文四年)の九月十六日の御文並に御音信物は

同十一月十三日に到来、注文のごとく [二字不明] 請取うれしく思ひ、

一五郎作殿内儀方御果候よし [蟲喰] 方格段 [二字不明] 察思 [此下切れてなし]

なれども前世 [此下切れてなし]

さきだつならい [此下切れてなし]

まゝ御こゝろを慰められ [此下切れてなし]

今度少々音信物の覺

光明寺へ白木綿

壹反

一上々龍腦

正實貳斤九十め

一菩薩珠

正實百斤

一白砂糖てる

壹ッ

右三色は五郎作殿三藏殿三吉殿

一ゆかた

壹ッ

一小刀

貳本

れうつめの帯

壹筋

右は五郎作殿え

一ふとんさらさ

壹筋

紫ちりめん帯

壹筋

右五郎作殿子息平吉殿へ

此行不明

不明

同帶

壹筋

同はり

壹疋

右五郎作殿むすめおかめ方へ

同壹ッ

小刀

貳本

りんずの帯

壹筋

右は三藏殿へ

一ふとんさらさ

壹端

絲少はり

壹疋

右三藏殿内儀方へ

一ふとんさらさ

伽羅

貳き

紫ちりめん帯

ふくさ物

壹ッ

右三藏殿子息勘八殿へ

一ゆかた

小刀

貳本

れうつめの帯

壹筋

右三吉殿へ

一ふとんさらさ

壹端

一 絲少 はり

壹 疋

右は三吉殿内儀方へ

一 ふとんさらさ

壹 端

一 紫ちりめんの帯

壹 筋

右三吉殿子そくへ

一 流行の單物

壹 ツ

一 ふとんさらさ

壹 さ

一 りんずの帯

壹 筋

右三吉殿むすめおもん方へ

右之通慥に相被届頼置、いよく無事の御返ぢまぢり、目出度くかしこ、

寛文五年乙巳四月十三日

六兵衛後家ふく

五郎 作殿

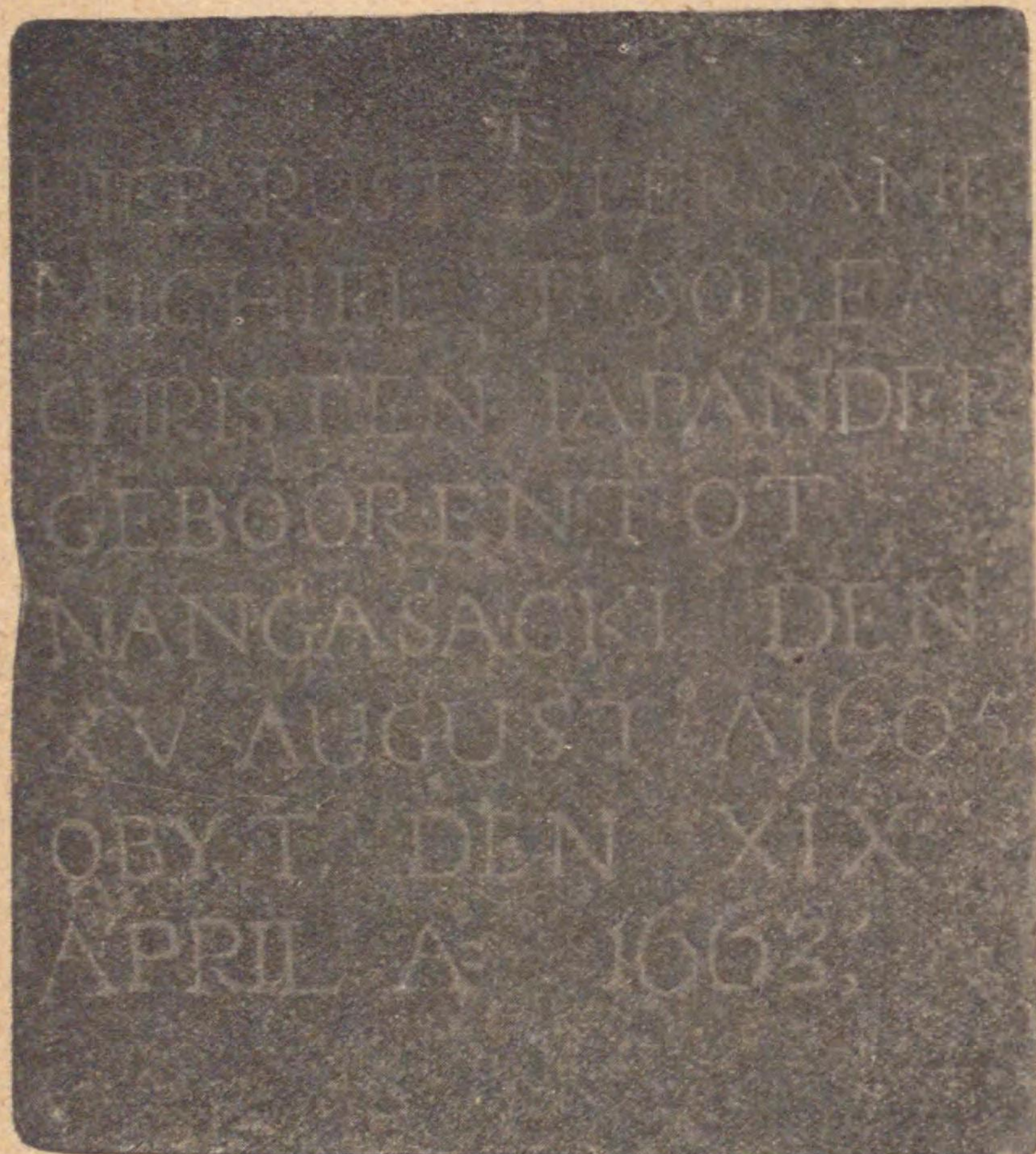
三藏殿

註

延寶年間ジャバ在住の日本人中に、平戸の谷村三藏同五郎作譜代の下女なりしフクといふものあり、此書の差出人は同人にして、五郎作三藏は其主人なるべし、文政二

年五月平戸町谷村三右衛門の家に於て、ジャガタラよりの文壺通を發見せし由傳あるは、本書狀ならん、同家の先祖は河内浦に住み、蘭人引拂後平戸に移住したりといふ、

ウ バタビヤの日本人墓碑



碑文翻譯

一六〇五年八月十五日長崎に於て生れ、一六六三年四月十九日死去したる日本人基督教徒ミヒエル・テ・ソーベ君此所に眠れり、

註

此墓碑はバタビヤ市街の敷石に用ひありしを、千八百八十六七年頃に宣教師キング(A. E. King)氏發見し、許可を得て他の石を納め、之を英國人會堂の構内に移せり、碑は今同市の我が領事館内に在り、
出生の日は慶長十年七月一日、

死亡の日は寛文三年三月十二日に當れり、總兵衛は何人なりしか明にすること能はず、又安永の二字の意も未だ思ひ當らず、

辛 平戸英商館長及び主なる館員

慶長十八年十一月開館—元和九年十一月

閉館

エケレス・カピタン

一六一三年十二月—一六二四年一月

Richard Cocks

ルイ・チャル・カクス

William Eaton

キリエモ・エトン

同

イシキリハン

石切番

同

Edmond Sayers

メストル・セイヌ

同

元和六年四月

死去

William Adams

三浦安針

—
一六二〇年五月

同

元和四年二月

出發

Richard Wickham

ルイ・チャル・ウイカン

一六一八年三月

同

元和六年二月

死去

William Neelson

キリエモ・ネルソン

一六二〇年三月

同

慶長十九年

夏殺害

Tempest Peacock

同

—
同

Walter Carwarden

元和二年一月—元和九年十一月

閉館

John Osterwick

メストル・アステル

一六一六年二月—一六二四年一月

アストロ

註

右に掲げたる假名の稱呼は、當時の文書に見えたるものにして、次の蘭商館長及び總督の名も亦然り、

此所に掲ぐる英蘭商館長其他の自署は、原文書に就きて模寫したるものなり、

Ric: Coek

Jaques Speex

Johannig Brouwer

Leonardt Camps

Cornelis van Reijerode

Nicolaes Louckebaker

Baron

*William Eaton
for Osterwick*

Edmond Gayer

署自員館商英蘭

ノ 平戸蘭商館長

慶長十四年八月二十二日—同十七年十二月二十四日

一六〇九年九月二十日—一六一三年二月十三日

慶長十七年十二月二十四日—慶長十九年八月

一六一三年二月十三日—一六一四年九月

慶長十九年八月—元和六年十二月

一六一四年九月—一六二一年一月

元和七年九月二日(一六二一年十月十六日)平戸出帆のズワーン號にて日本を
去る、

元和六年十二月—元和九年九月二十九日

一六二一年一月—一六二三年十一月二十一日

ジャカウヘ・スヘキス

Jaques Speex

アンデレイコ・ホロウワル

ハンレイカ・ホロワル

Hendrik Brouwer

ジャカウベ・スヘキス

Jaques Speex

Leonardt Camps

元和九年九月二十九日—寛永九年十一月

コルネイレン

一六三三年十一月二十一日—一六三三年十二月

Cornelis van Neijenroode

寛永九年十二月二十二日(一六三三年一月三十一日)平戸に於て死去、

寛永九年十一月—同十年九月

Pieter van Santen

一六三二年十二月—一六三三年十月

寛永十年九月—同十六年一月一日

ニコラス・コケハカリ

一六三三年十月—一六三九年二月三日

Nicolaes Conckebacker

寛永十六年一月一日—同十八年一月一日

フランソワ・カロ

一六三九年二月三日—一六四一年二月十日

François Caron

寛永十八年一月一日—同年六月十七日

ラメル

一六四一年二月十日—一六四一年七月二十四日

マクスメリヤアン・マイラ

移轉

Maximilian le Maire

オ 寛永以前の蘭領印度總督

一六一〇年—一六一四年

Pieter Both

一六一四年—一六一五年

ヘイトル・ポット

一六一五年—一六一九年

Gerrit Reijnst

一六一九年—一六二三年

Laurens Reaal

一六二三年—一六二七年

Jan Pieterszoon Coen

Pieter de Carpenterier

一六二七年—一六二九年

ヒイトル・カラヘンテイル

一六二九年—一六三二年

Jacques Speex

一六三二年—一六三六年

ジャカウベ・スヘキス

Hendrik Bronwer

アンデレイコ・ボロウワル

一六三六年—一六四五年

Antonie van Diemen

安 當 仁・半 天 滿

ク 平戸貿易史料

Dr. Ludwig Riess, History of the English Factory at Hirado, 1613—1623. Tokyo, 1897.

Dr. Oskar Nachod, Die Beziehungen der Niederländischen Ostindischen Kompagnie zu Japan im siebzehnten Jahrhundert. Leipzig, 1897.

菅沼貞風著 平戸貿易志 明治二十五年東京市八尾出版

平戸英商館文書 ロンドン市印度事務省及ブリタニシヤム藏

Letters received by the East India Company from its Servants in the East. London, 1897-1902.

Diary of Richard Coocks, Cape Merchant in the English Factory in Japan, 1615—1622. 明治三

十二年東京市三秀舎出版

The Voyage of Captain John Saris to Japan, 1613. London, 1900.

Thomas Rindall, Memorials of the Empire of Japan in the XVIIth and XVIIIth Centuries. London,

1850.

Letters written by the English Residents in Japan, 1611-1623. 明治三十三年東京市三秀

舎出版

Engelbert Kaempfer, The History of Japan. London, 1727.

Arnold Montanus, Gesantschappen der Oost Indische Maatschappij in Nederland aan de Kaisaren van Japan; translated by Ogilby and entitled Atlas Japonensis. London, 1670—1673.

平戸蘭商館文書 ヘーグ市國立文書館藏

Dagh Register gehouden int Casteel Batavia. Haag, 1887—

François Valentijn, Oud en Nieuw Oost Indien. Amsterdam, 1724—1726.

Mr. L. C. D. van Dijk, Tets over onze Vroegste Betrekkingen met Japan. Amsterdam, 1858.

フエッペン諸島文書 セビーヤ市印度文書館藏

P. Francisco Colin, Labor Evangelica en las Islas Filipinas. Barcelona, 1900.

P. Giovanni Pietro Maffei, Le Istorie dell' Indie Orientali.

P. Daniello Bartoli, Dell' Istoria della Compagnia di Gesù: L'Asia.

大日本史料第十二編 東京帝國大學出版

通航一覽 大正二年東京市國書刊行會出版
 村上直次郎校註 異國日記抄 明治四十四年東京市三秀舎出版
 村上直次郎著 日蘭三百年の親交 大正四年東京市富山房出版

附 錄 終

大正六年四月十五日印刷
 大正六年四月二十日發行

貿易史上の平戸

定價金壹圓五拾錢

著 作 者

村 上 直



發 行 者

古 藤 田 喜 助

東京市小石川區表町百九番地

印 刷 者

三 浦 猪 平

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所

株式會社 秀英舎第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

不許		複製
----	--	----

發行所

東京市小石川區表町百九番地
 振替東京二八一八六番
 電話番町三七六八番

日本學術普及會

